

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 松阪工業高等学校 定時制課程 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○生徒一人ひとりが基本的な生活習慣を身につけ、社会生活に適応し、個に応じた自己実現を果たすことを支援する学校 ○生徒の相互理解の精神を育み、相手の立場に立って考える人権感覚を養う学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○働きながら、前向きに学習に取り組む意欲を有する生徒
	ありたい 教職員像	○生徒の個性を伸ばし、人間性を高めることを常に意識し、生徒の成長を自らの喜びとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒>理解しやすい授業、基礎学力の向上と、居心地の良い学校 <保護者>基本的な生活習慣を身につけること、基礎学力の向上と、安全安心して通える学校 <進路先>基礎学力があり、コミュニケーション力のある人材	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<b>連携する相手からの要望・期待</b> <家庭>子どもや学校の現状の報告 <中学校>学校の様子と卒業生の近況報告	<b>連携する相手への要望・期待</b> <家庭>学校教育活動への理解と協力 <中学校>継続的・効果的な指導のための個々の生徒の情報共有
(3) 前年度の学校関係者評価等		○命を大切にする教育については家庭との連携を密にしてとり組む必要がある。 ○校外の人たち(多文化、異世代)とふれあうことによって新しい自分の良さに気付かせることはよいことである。イベントへの参加を積極的に行うことで様々な気づきが生まれるのではないかと。 ○生徒の自己肯定感を高めるためには資格取得の取り組みをさらに推進することも有効である。	
(4) 現状と課題	教育活動	○小中学校で不登校を経験している生徒や他校より再入学してくる生徒等、在校生は多様化している。また、生徒の多くが悩みや課題を抱えている。 ○外国人生徒が増加傾向にあり、平成30年度の外国人生徒数は在籍生徒数の50%を占めている。そのため、学校生活の中で、文化の違いやコミュニケーションにおいて困難な場合がある。	
	学校運営等	○少人数の教職員集団によって、多様な生徒の自己実現に向けて、いかに適切な対応をはかるかが大きな課題である。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	○個別指導(三者面談・家庭訪問・教育相談等)を実施することにより、基本的な生活習慣・自らを律する精神を生徒一人ひとりが身につけている。 ○多文化理解教育を行い、他の国の文化や習慣を相互理解し、他人を思いやる心を持っている。 ○学習および学校活動への興味・関心・意欲を生徒一人ひとりが持ち、積極的に参加する学校となっている。 ○基礎学力の向上の取り組み等を推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていくとともに、コミュニケーション能力の向上、職業選択能力や、勤労観・職業観の育成を図る。 ○命を大切にする教育、主権者教育の充実を図る。
学校運営等	○生徒に提供する授業内容を充実し、基礎学力向上につなげるため、全教職員が連携して授業公開や授業研究などを行うことにより授業改善をすすめる。特に、生徒自身の能動的、主体的な学びを意識した授業づくりを進める。 ○教職員が相互に学び合い高め合うことで資質能力を向上させ、学校の組織力を高める。 ○総務事務の集中化、教職員育成支援システム、学校関係者評価等、新たな制度の導入が進む中で、会議の効率化や仕事の平準化などにより、勤務総時間の縮減を図る。 ○三重県いじめ防止条例を理解し、その趣旨に基づく取組に努める。

#### 4 本年度の行動計画と評価

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

##### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒指導	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立を支援し、社会生活への適応を図るとともに、道徳教育や人権教育をはじめとする教育活動全体を通じて、命を大切にすることを教育を行う。</p> <p>(2) 三重県いじめ防止条例に基づき生徒が主体的かつ自主的に行ういじめの防止に資する活動を支援する。</p> <p>【活動指標】校門での登校指導・挨拶指導、授業間の巡回指導を毎日行い、個別指導を徹底する。総合的な学習の時間等において、人権講話や薬物乱用防止講話等、命の大切さや規律の大切さについての講話を年10回以上実施する。いじめの早期発見に対する生徒の意識を高める。</p> <p>【成果指標】問題行動の減少。中途退学者の減少。いじめの認知を積極的にを行い、その解消に努める。</p>	<p>(1) 生徒の登校時や授業中等における校内巡回指導により、生徒の状況を把握した。</p> <p>(2) 全校人権学習会6回、情報モラル講話、防犯、防災教育等、計11回実施し、生徒に対して命の大切さやいじめに対する予防、未然防止、早期対応を実施した。問題行動1件、中途退学者2名(前年度比1.3%減少)</p>	◎
学習指導	<p>(1) 基礎・基本を重視した授業を推し進め、生徒の基礎学力の向上を図る。</p> <p>【活動指標】学ぶ喜び、わかる楽しさを実感させる授業の実現のために教科ごとに研究授業に取り組む。研究授業を年3回以上実施する。</p> <p>【成果指標】生徒一人ひとりの学習意欲を向上させる。</p> <p>(2) 外国人生徒の日本社会への適応のために、日本語の習得に重点を置く。また、多文化理解教育を推し進め、国際的な人権感覚を養う。</p> <p>【活動指標】外国人生徒担当者会議を各学期に1回以上、日本語指導研修会を年1回以上実施し、日本語の習得状況の把握、効果的指導法等を話し合う。</p> <p>【成果指標】日本語能力テストの結果を指標とする。生徒が互いの文化を尊重し相互理解を深める。</p>	<p>(1) 10月の1週間の授業公開時に各教科で研究授業を実施した。生徒一人ひとりの学習意欲向上に向け、さらに取り組む必要がある。(2) 外国人生徒担当者会議を日本語指導研修会を学期ごとに1回ずつ実施した。中間・期末考査時に日本語能力テストを実施し、外国人生徒の日本語能力を把握した。</p> <p>日常生活に密接した学習課題を取り入れる等、生徒の学習意欲と、生徒による互いの相互理解が深まった。</p>	
進路指導	<p>(1) 生徒一人ひとりの能力と適性に応じた進路の実現を図る。</p> <p>【活動指標】1年生から継続した進路指導を実施し、生徒一人ひとりの進路希望の実現を支援する。生徒一人ひとりの個別面談を年3回以上実施する。</p> <p>【成果指標】4年生の進路希望を実現させる。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、働きながら学ぶことを奨励する。</p> <p>【活動指標】キャリアノートの活用とキャリアガイダンスの充実により、就労の奨励・推進を図る。ハローワーク等の関係機関との情報交換を月1回以上実施する。</p> <p>【成果指標】働きながら学ぶ生徒の割合を70%以上にする。</p>	<p>(1) 全学年で個人面談(三者面談を含む)を各学期末に1回実施した。毎日の打ち合わせ及び全職員で年間12回の生徒情報交換会を持ち生徒理解に努めた。(2) 4年生の進路希望については学校またはハローワークなどの紹介による受験者は2名。両者ともに地元企業に内定。過年度生や外国籍生徒が多く、「卒業を目指すこと」を目標とし、継続就職や自己開拓就職を望んでいる為、見守る進路指導しかできなかった。働きながら学んでいる生徒の割合はアルバイトを含め約8割である。</p>	

改善課題

○（生徒指導）生徒への声掛け、授業間の巡回指導、個別連絡の徹底を図ることにより、生徒とコミュニケーションをとることで、欠席や遅刻、授業の中抜けの減少など日々の様子観察の効果はあるが、生徒が自発的に規律を守り意識を一層高めていく必要がある。相手の立場に立って考えるという意識がまだまだ希薄な生徒も多いため、意識向上のために必要な学習機会を、状況に応じて継続的におこなわなければならない。

○（学習指導）例年に比べて生徒の理解力が不足しており、学習プリントも漢字以外は答え待ちの姿勢の生徒がみられる。外国籍生徒の定期テストに対する意欲が低下しているのが課題である。学年によっては日本語能力に不安のある外国籍生徒がいるので、授業内容の選択が難しい。

○生徒の生活環境・心理状態等の把握や、基礎学力・学習態度の育成の為、1学期初旬から年間を通じた生活体験作文等の作文指導が必要である。

○生徒の主体的な社会参画と自主性を育むために、わかる授業の追究と、特別活動や総合学習等、学校行事の充実を継続する必要がある。

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業改善	<p>(1) 効果的な授業づくりのために、計画的な授業研究や授業公開を実施する。</p> <p>【活動指標】保護者等の授業参観を実施する。教職員間の校内授業公開日を設定する。</p> <p>【成果指標】授業参観数を増加させる。学ぶ喜び、わかる楽しさを実感させる授業の実現。</p>	<p>(1) 10月1日から1週間授業公開を実施した。各教員は、生徒の学ぶ喜び、わかる楽しさを日々追究している。</p>	◎
資質向上	<p>(1) 教職員相互の研鑽および校内外の研修等を通じ、資質能力を高める。</p> <p>(2) 三重県いじめ防止条例の趣旨及び内容等の理解に努める。</p> <p>(3) 教職員が心身にわたる健康を維持し、意欲を持って教育活動を維持する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教職員が、研修会等に積極的に参加し、自らの資質能力の向上に努める。</li> <li>月1日、定時退校日を設定する。</li> <li>すべての会議時間を、1時間以内に短縮する。</li> <li>各教職員の休暇取得を一人年1日増やす。</li> <li>月の時間外労働が80時間を超える人数を削減する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修に参加した教職員よりその内容が環流され共有される。</li> <li>仕事と生活の調和を実現し、やりがいや充実感を感じながら教育活動を維持する。</li> </ul>	<p>(1) 各教員が研修会等に積極的に参加し、日々の打合せや職員会議等で研修内容が環流され共有されている。参考となる資料等は、回覧や全員配布することで全教員に活用されている。年間を通じて教員同士が、個別の学び合いを実施している。すべての会議時間を1時間以内に短縮する等、教職員のメンタルヘルスを含む働きやすい環境づくりに努めた。</p>	
危機管理	<p>(1) 生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるように、防災・防犯等に係る非常時の対応力の強化を図る。</p> <p>【活動指標】危機管理マニュアルを常に見直し、その運用の徹底を図ると共に、必要な事項を生徒・保護者へ周知する。また、消防署・警察署等と連携して、防災訓練・防犯訓練を実施し生徒の安全の確保を図る。</p> <p>【成果指標】教職員の危機管理意識の向上と生徒の安全意識の向上を指標とする。</p>	<p>(1) 危機管理マニュアルの見直しをするとともに、消防署・警察署等と連携して、防災訓練心肺蘇生とAEDを使用した応急手当講習会を実施し生徒の安全意識向上を図った。生徒の個人情報等の管理について教職員の意識の向上を図った。</p>	

## 改善課題

○各教科において生徒が主体的・対話的に深い学びができるよう授業改善や「わかりやすい授業」実践のためICT教育の研修を深める必要がある。特に外国人生徒への対応では取り出し授業や他の教科において各教員が外国人生徒と丁寧に接し、生徒が自己のアイデンティティを大切にしながら日本社会で生きていく中で大切なことや、特にお互いを思いやる心の育成に努める必要がある。

○全教員が授業改善に取り組むため、他の教員の授業を見てお互いに学ぶという意識を一層強める必要がある。

○総勤務時間の縮減に向けては一部の教職員に負担がかからないよう、継続して仕事の割り振り等を考え配慮するとともに、教職員数が少ない中、互いに助け合い、組織で対応する意識も持ち続けたい。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○命を大切にする教育については家庭との連携を密にしてとり組む必要がある。環境学習等、地域と連携した活動にも今後取り組んでもらいたい。 ○教職員の年齢構成と深い経験を十分に活かし、各教職員のさらなる資質向上と教育活動の活性化を図られたい。
---------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○基礎学力向上の取り組みをさらに推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていく。 ○キャリア教育の充実と、生徒が主体的・対話的に深い学びができるよう授業改善に取り組んでいく。
学校運営についての改善策	○生徒一人ひとりに対し、生徒面談や教育相談等、きめ細かな指導体制をとっていく。 ○生徒の基礎学力向上と外国人生徒の日本語指導力向上のため、ICT教育等、職員研修の継続と教材の開発をしていく。